

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	はあとキッズ i 新山口			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～	2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35人	(回答者数)	22人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が体を動かすことができるスペースが室内に十分にある。 天候、季節に関係なくのびのび活動できる。 すぐ隣に公園があることも、体を動かして遊ぶのによい環境である。	体を動かすレクリエーションや体力づくりを行っている。	用具等を使う運動も取り入れ、ルーティン化していく。 広さを活用した新しいレクリエーションを考えて、ストレスの発散や体力づくりが楽しくできるようにする。
2	法人内にいろいろな事業所があり、療育の面で連携でき、職員の研修においても多角的に情報交換できる。	ヒヤリハット報告や研修で、定期的に情報交換できている。 困っていることに対して意見をもらっている。 法人内の農園に行くことができ、体験的な療育ができている。 イベントに参加している。	学童や保育園との交流をすすめていく。 法人主催のイベントに参加して地域の人々と接する。
3	児童にいろいろな体験を積んでもらっている。	博物館等の地域資源を活用して、見聞を広めている。また、体験型の施設も利用している。外出先でのマナーも支援内容に含まれる。 クッキング・制作を頻繁に行い、成功体験を積んでもらっている。	さらに体験が積めるように地域資源を見つける。 家庭では体験しにくいことを活動プログラムに入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の多様な特性、幅広い年齢に対応するのが難しい。	施設の構造により、児童の気持ちが不安定になったときのクールダウンの場所がない。 年齢層が広く、体格の大きい児童がいるが、対応できる職員が少ない。 基準の職員数だと、幅広いニーズにこたえられない。	工夫して区切られた空間を作る。 個々の障がいに合わせて対応技術を、研修等を通して磨いていく。 専門職(OT等)の配置。
2			
3			